

ぶつきょうつうしん はな おや ねが こ おも がつ
仏教通信 「花まつり(親の願いと子どもの思い)」 4月

こうのだいじょしがくいん まいとし がつしよじゅん じゅこうでん しょう じどう てんにんやく ち ごしょうぞく み しゃかさま たんじょうひ
国府台女子学院では、毎年4月初旬に、寿光殿において小3児童が天人役の稚児装束を身にまとして、お釈迦様の誕生日
(4/8)を祝う「花祭り」が行われています。そのお釈迦様は、今から約2500年前に、インドで生まれました。伝説によれば、お
釈迦様が生まれた時、まわりにたくさんの花が咲き、空からは甘い雨が降ったといわれています。花祭りでは、その故事に習い、
みどう なか う すがた しゃかぞう かざ あまちや いわ
御堂の中に生まれた姿のお釈迦像を飾り、甘茶をかけてお祝いをしています。

しゃかさま しょう くに おう ぶにん あいだ う おうじ きょうてん しゃかさま おうじ
お釈迦様は、カピラ国のスッドーナ王とマヤー夫人の間に生まれた王子でした。経典によれば、お釈迦様(シダッタ王子)
う とき せんにな おとず おうさま こ おうい つ せかい とうち くだい おう しゅつけ ひとひと こころ すく
が生まれた時、仙人が訪れて王様に「この子は王位を継げば世界を統治する偉大な王になるか、出家すれば人々の心を救う
ぶっだ しんり めざ もの よげん おうさま むすこ しゅつけ えら ぶっだ おそ
仏陀(真理に目覚めた者)になるでしょう」と予言しました。王様は、息子が出家を選び仏陀になることを恐れていました。なぜ
なら王様は、愛する妻が命をかけて産んだ息子には王位を受け継いでもらい、王族として豊かな人生を送って欲しいと願った
からです。そこで父王は、王子が老・病・死の悩みや外界の苦しみ・恐怖を感じさせないように、豪華な宮殿や衣服、娯楽を
あた なにふじゅう そだ おうじ せいちょう したが じんせい くる かな せかい みぶん さべつ
与え、何不自由なく育てました。しかし、王子は成長するに従い、人生の苦しみや悲しみ、なぜ世界には身分や差別があるの
か疑問を持つようになりました。そして、ついに29歳の時、今まで執られていた地位・財産・家族など全てを捨てて出家する
のでした。

おうさま むすこ しゅつけ なん と おうじ けつ い かた ちちおう ねが かな
王様は、息子の出家を何としてでも止めようとしたのですが、王子の決意は固く、父王の願いは叶いませんでした。このスッド
ーナ王の気持ちは、息子が地位や金銭、そして家族を手に入れ、人が羨むような勝者の人生を送って欲しいと願う親心の
あらわれ ちの しゃか おうじ じぶん こころ こえ したが ちい きんせん しゅつけ みち えら
表れました。しかし、後にお釈迦さまとなる王子は、自分の心の声に従い、地位や金銭ではない出家の道を選んだのです。
はなし おや じぶん ねが こ お つ こ いし しん みまも たいせつ おし
このお話は、親が自分の願いを子どもに押し付けるのではなく、子どもの意志を信じ、見守ることの大切さも教えてくれるの
です。

わたし おや わ こ いと おも くち て だ こ
私たちが親は、我が子を愛おしく思うあまり、ついつい口や手を出してしまいがちですが、子どもは
ひ び せいちょう おやせだい じぶん ちから じんせい き ひら わかもの しん
日々成長していくのですから、親世代は、自分の力で人生を切り開こうとする若者を信じ、
みまも ゆうき ひつよう はな しゃかさま たんじょうひ おや
見守る勇気も必要になってきます。「花まつり」は、お釈迦様の誕生日を祝うだけでなく、親子の
あいじょう おや こ おも ちが こ しん みまも たいせつ おし
愛情、親の願いと子どもの思いの違い、そして子どもを信じて見守ることの大切さを教えてく
れる仏教行事なのです。 がつしやう
合掌



はなまつ がつ にち しょうとくたいしほうさんえ がつ にち
花祭りは4月12日(土)、聖徳太子奉讃会は4月21日(月)におこないます。

しょうがくぶらいはいいいんかい
小学部礼拝委員会